

第3回日本短歌大会表彰者一覧

◇第3回日本短歌大会大賞

閉店を知らせる紙を巻き上げて駅前通りを吹く春一番

田之口久司

◇第3回日本短歌大会次席

八月の横柄な雲は国をのみ陽を蹴散らかして私を抱きにくる

萩谷宇彦

◇神奈川県新聞社賞

距離を速さで割りました時間よそなたは止まらぬ愛だ

安西大樹

◇TVK（テレビ神奈川）賞

待ち合わせに一時間ほど早く着きこれから先のシナリオを練る

武藤昭彦

◇石川美南賞

穿たれし胸の奥辺に突きささる不実の欠片びょうびょうとして夏枯れしゆく

桑崎かごめ

◇井辻朱美賞

青い月 廃墟の街をぼくはあるく人類がみな塩になるまで

浮島

◇甲村秀雄賞

どなた様か存じませぬがありがたう居眠る私に肩かしくれて

村上公子

◇千々和久幸賞

一日は二十四時間ですよねと課長が念を押す金曜日

松沢みどり

◇優秀賞金賞

ほどほどの視界よきもの夏病みに片目めしいて半分のみ

小林純子

夜叉の顔して乾鮭の吊るされし町を歩けば海からの雪

嶋田恵一

ビルの谷となりたる事務所入口に天窓ほどの空あふぎ見る

田淵裕彦

アルコールと呼んでくれるな多酒多様星の数ほどの星にある

齋藤ト

リハビリに耐えているかの同室の老婆の背にも女の意地が

芝山喜美子

宿題の山も下りにさしかかる 八月の蝉われも真剣

花澤萌子

死に近き猫のあうんを丑三つに息をころして見まもりてをり

石原定義

お互いの反応さぐる長袖のどうだろうねえ九月のスイカ

佐々木あき

鳥といふ字には目が無いわたくしはいたづら好きの鳥に目が無い

渡辺詔子

木陰なる八一の歌碑に寄りゆけば碑に映りたるわが影動く

鈴木得能

◇優秀賞銀賞

きみ飛ばす紙のひこうきふうはりで見あぐるわれも風と寄りそふ

炭谷余蘂

三人の僧の読経に導かれ幼馴染みは彼岸へ向かう

加藤静子

ひなまつり家の官女は片付かぬ自己の意志もち雛壇おりず

若林益六

寒ささへ素敵に思へる札幌のリラ冷えの日の舞茸スープ

上田由美子

大根もかぶ菜も漬けてさあ雪よ待つにあらねどいつでもまゐれ

宮しづ子

漱石の通ひたる眼科なほ在りて鐘が鳴るなりニコライ堂の

樟 海峡

てのひらのうらにまわつただんごむし14ほんのあしでてくてく

武藤万葉

夕さりて遊ぶ子のなきブランコに秋風のりてかすかに漕ぎぬ

新藤道子

小気味よい打球の音に歓声の弾けて球場夏雲高し

川上 學

風荒き竜飛の岬に咲きたきと夢見つづけたたんぼの花

高橋登喜

ギンギシと軋む階段踏みしみて担ぎおろしぬ繭袋二つ

松島直子

あれは春 口笛ふけたからとたいタンポポ色の風に揺れいる

石邊綾子

けだるき日わが背丈ほどのサボテンが澄む黄の花を噴きいだしをり

黒澤里子

ラフマニノフ繰り出す十指すでに撥黒鍵を突く白鍵を剥ぐ

秋葉勢津子

◇青少年奨励賞（右記の賞に加え特にこれを表彰する）

花澤萌子（14歳）

武藤万葉（7歳）